

青森県南地方における初夏どりダイコンの品種とは種期について

豊川 幸穂・工藤 洋一*

(青森県畑作園芸試験場・*青森県営農高等学校)

Studies on the Varieties and Time of Seeding of Radish for
Early Summer in the Southern Part of Aomori Prefecture

Sachiho TOYOKAWA and Yoichi KUDO*

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment
Station・*Aomori Agricultural Economics College)

1 ま え が き

夏季冷涼な立地条件にある青森県には、中部上北地域の秋冬ダイコンの指定産地や、西津軽郡の海岸地帯および下北並びに上北地域を中心とした加工ダイコンの産地が成立し、ダイコンは、ナガイモ、ニンニクに次ぐ重要な地位を占めている。しかし、春の遅い青森県では、初夏どり、とくに6月どり栽培は、その作型が確立されていないため、ほとんどなく、この時期のダイコンは、県外からの移入ものに依存している。また、近年予冷施設が設置され、今後さらに数か所で施設の導入計画があり、これに伴ってこの時期のダイコン栽培の増加が期待される。

以上の観点から、青森県南地方における初夏どりダイコンの品種とは種期について検討した。

2 試 験 方 法

1 供試品種

“春みの早生”、“春王”、“春早生”、“四月早生”、“晩抽総太り”の5品種を用いた。

2 作型とは種期 表1に示すとおりである。

表1 作型とは種期

は種期	作型	トンネルマルチ	マルチ	露地
3月25日		○		
4月15日		○	○	○
4月25日			○	○
5月5日				○

注. トンネル: 0.05mmポリフィルム
マルチ: 0.02透明ポリフィルム使用

3 耕種概要

(1) 栽植密度

トンネルマルチ及びマルチ区: うね幅150cm, 株間24cm, 3条植, a当たり833株。

露地区: うね幅55cm, 株間30cm, a当たり606株。

(2) 施肥量 (a当たり)

苦土炭カル20kg, 苦土重焼燐14kg, 窒素, りん酸, カ

リ各1kg (全量基肥)。

(3) 1区面積・区制 1区15㎡, 3区制。

3 試 験 結 果

1 抽だいについて

この作型では、は種期がまだ低温期であるため不時抽だいが問題となるが、収穫期における抽だい率及び花茎長は表2に示すとおりである。

表2 各作型における収穫時の抽だい率

項目	品種	作型 は種期 収穫期		トンネルマルチ		マルチ		露地		
		3.25	4.15	4.15	4.25	4.15	4.25	5.5	7.7	7.9
抽だい率 (%)	春みの	100.0	86.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	春王	93.3	96.7	100.0	76.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	春早生	3.3	10.0	96.7	86.7	100.0	90.0	50.0		
	四月早生	0	0	46.7	10.0	100.0	86.7	20.0		
	晩抽総太り	0	0	23.3	0	100.0	100.0	20.1		
花茎長 (cm)	春みの	16.4	12.9	88.6	75.4	109.2	120.9	108.6		
	春王	9.1	34.9	90.3	25.0	116.2	121.4	95.9		
	春早生	1.0	3.6	27.7	25.2	119.5	10.7	9.1		
	四月早生	0	0	2.6	0.2	77.1	29.8	2.1		
	晩抽総太り	0	0	0.8	0	114.8	48.5	0.7		

トンネルマルチ栽培の3月25日まきでは、“春みの早生” “春王”が高率に抽だいたのに対し、“四月早生”、“晩抽総太り”の2品種は抽だいが全く認められず、また、“春早生”も抽だいが少なかった。同様の傾向はマルチ栽培の4月15日まき、露地区の5月5日まきの両区でも認められ、“春みの早生”、“春王”が100%抽だいたのに対し、“四月早生”、“晩抽総太り”の2品種は20~50%の抽だい率にとどまり、しかもその花茎長は3cmに満たなかった。

このように、品種によって抽だい性に大きな差異が認められ、“四月早生”、“晩抽総太り”の2品種が抽だいにくかった。また、被覆処理によって、抽だいが抑えられることから、は種期を早めることができると考えられる。

2 気温について

当場園芸部(上北郡六戸町)における平年と試験の実施

年との半月別最低気温を比較すると、6月以降はほとんど平年以上の気温で経過したが、最も早く、は種した3月6半月から5月までは、平年以下であった(図1)。

以上の気象経過からみて、“四月早生”、“晩抽総太り”では平年なみの気温で経過すれば、不時抽だいの危険はさらに少なくなるものと考ええる。

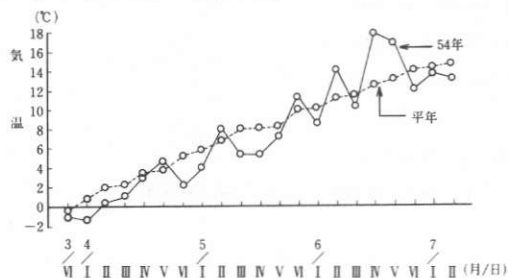


図1 最低気温の推移(昭和54年)

3 収穫時期および収量について

収穫時期は、表2に示したとおり、トンネルマルチ栽培の3月25日まきで5月末、マルチ栽培の4月15日まきで6月下旬、露地の5月5日まきで7月上旬となり、いずれの作型でも6～7月に収穫することができた。

収量は、各作型とも抽だいの少ない品種及び、は種期で多収を示した(図2)

表3 収穫物調査(トンネルマルチ栽培, 3月25日まき)

品種	項目	全重(kg)	根重(kg)	根長(cm)	根径(cm)	形状指数*	首部の色	ス入り	肌	ひげ根
春みの		0.9	0.5	37.5	4.1	9.1	白	早	上	中～少
春王		1.0	0.5	34.4	4.4	7.8	白	中	上	中～少
春早生		1.1	0.7	40.2	5.0	8.0	薄緑	中	上	中～少
四月早生		0.9	0.6	37.7	4.5	8.4	白	遅	上	中～少
晩抽総太り		1.0	0.8	25.1	6.7	3.7	緑	遅	上	少

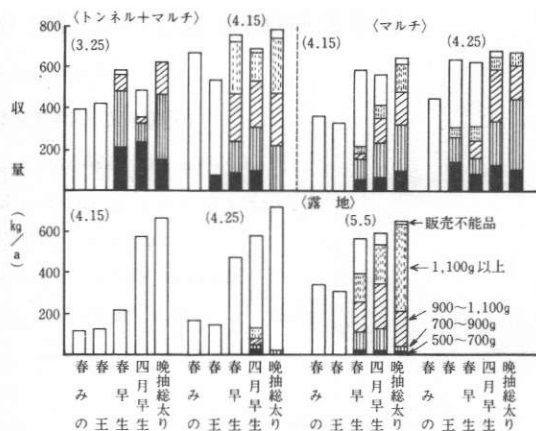
注. *形状指数=根長/根径

4 ま と め

初夏どりダイコンの作型確立のため、品種と、は種期について検討した。

その結果、抽だい性は品種、作型によって差異が認められた。品種では、“四月早生”、“晩抽総太り”と“春早生”のトンネルマルチ栽培で抽だいが少なく、作型別には、トンネルマルチ栽培の3月25日まき、マルチ栽培の4月15日まき、露地栽培の5月5日まきで少なかった。

収量もこれらの品種、作型で多く、いずれの作型でも6



注. ()内は、は種月日。

花茎長10cm以下の抽だい株は販売可能として調査。

図2 各作型におけるは種期別の収量

4 品質について

供試した品種のなかで、“春早生”、“晩抽総太り”は青首系であった。

ス入りは、“四月早生”、“晩抽総太り”の2品種が遅く、収穫時にはほとんど認められず、ひげ根もこれらの品種では他の品種に比べて少なかった。

また、晩抽総太りは、根長25cm内外と短根であった(表3)。

～7月収穫が可能であった。

以上の結果から、青森県南地方における初夏どり栽培のは種期は、トンネルマルチ栽培で3月下旬、マルチ栽培で4月中旬、露地栽培で5月上旬となり、品種は、いずれの作型にも“四月早生”、“晩抽総太り”が適し、“春早生”は、トンネルマルチ栽培に適すると考えられる。

また、トンネルマルチ栽培の場合、は種期をさらに早めることができようが、当地方では3月中旬は融雪期にあたることを考慮すれば、3月下旬が適期と考えられる。